授業科目名・形態	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志　藤田博章　平林朋子	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W6-2008s				

【授業の主題】

ソーシャルワーク実習に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を目指していく。

【到達目標】

1）ソーシャルワーク実習の意義と仕組みについて理解する。
2）ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の役割を理解する。
3）実習施設や機関、利用者、関連する地域社会等について理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション、ソーシャルワーク実習の意義
第 2 回　ソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義
第 3 回　ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の理解（社会福祉士の役割）
第 4 回　実習の場と形態の理解（法令上のソーシャルワーク実習施設）
第 5 回　ソーシャルワーク実習先の理解①（特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター）
第 6 回　ソーシャルワーク実習先の理解②（障害者支援施設、障害者就業・生活支援センター）
第 7 回　ソーシャルワーク実習先の理解③（病院、特定相談支援事業所、児童養護施設）
第 8 回　ソーシャルワーク実習先の理解④（社会福祉協議会、福祉事務所）
第 9 回　契約の中にある実習の理解（実習機関・施設におけるリスクマネジメント）
第 10 回　実習スーパービジョンの理解（実習スーパービジョンの実際）
第 11 回　ソーシャルワーク実習の仕組み（事前学習・実習中・事後学習）
第 12 回　ソーシャルワーク実習先の利用者理解①（分野別グループ発表：高齢者・障害者）
第 13 回　ソーシャルワーク実習先の利用者理解②（分野別グループ発表：児童・病院）
第 14 回　ソーシャルワーク実習先の利用者理解③（分野別グループ発表：社会福祉協議会・福祉事務所）
第 15 回　ソーシャルワーク実習の実際（4 年生実習報告会）

【授業実施方法】

講義および演習

【事前・事後学習】

・テキストを中心に 30 分の予習及び演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。
・ソーシャルワーク実習の意義と実習先や利用者の状況を理解し、授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク演習

【教科書等】

最新 社会福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）　中央法規出版

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

授業態度等 10%、レポート 40%、事例発表等 50%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

社会福祉施設で生活相談員として相談業務を経験し、ソーシャルワーク実習指導にも携わってきた。ソーシャルワーク実習に係る知識と技術について実践的な内容を伝えていきたい。

【学生へのメッセージ】

これまでの学習・生活経験を活かし、ソーシャルワーク実習を効果的に進めることができるように、主体的かつ総合的に取り組むこと。